予算事業別事務事業評価シート【対象年度：H27年度～H28年度】

部等名	課等名	係等名
科学技術振興部	科学技術･特区推進課	科学技術総合調整室

会計	款	項	目	事業	予算事業名
01	02	01	08	24	科学技術振興支援に要する経費

事業実施コスト	H26年度決算	H27年度決算	H28年度当初	H29年度当初
総事業費	19,134千円	28,153千円	16,370千円	0千円
総人件費	7,593千円	24,875千円	24,421千円	
総事業コスト	26,727千円	53,028千円	40,791千円	

事務事業名	02	科学技術振興関連施策推進事業		
戦略プラン	Ⅳ	11	1	科学技術の振興
総合戦略	-	-	-	-
	-	-	-	-
	-	-	-	-
個別計画	つくば市科学技術振興指針			
根拠法令等	-			
事業分類	A　任意的事業			
執行体制	職員のみ			
事業の目的	つくば市の最大の地域資源である科学技術や人材の集積をまちづくりにいかし，市民生活の向上，地域の安全･安心の強化，地域の競争力への貢献等を図るため。			
事業の概要	つくば市科学技術振興指針の基本目標（市の取り組むべき事項）について，庁内関係各課等と連携を取り進捗管理を行うとともに，科学オリンピック，科学の甲子園全国大会，イノベ-ションキャンパス，南極教室等を実施し，科学技術イノベ-ションを創出する優れた人材の育成に貢献する。また，財団法人 茨城県科学技術振興財団とつくばサイエンスアカデミ-が主催する江崎玲於奈賞，つくば賞，つくば奨励賞（実用化研究部門，若手研究者部門）に対して補助金を交付する。			
ISO 14001	-	-		
関連性 環境	-			

指標名	-	指標種別	-

目標値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度
	-	-	-	-	-	-	-
実績	-	-	-				

指標の概要	-
その他の指標	-

H27年度

改善目標	取り組むべき事項について，進行管理を徹底するとともに，各関係機関に働きかけを行っていく。
事業計画	･つくば市科学技術振興指針にある「市が取り組むべき事項」について，関係各課等における取組の進行管理を行う。 ･科学オリンピック，科学の甲子園全国大会，イノベーションキャンパス，南極出前授業等を実施し，科学技術イノベーションを創出する優れた人材の育成等に貢献する。 ･科学技術会合（ハイレベルフォーラム）をつくばで開催し，つくばの国際的な認知の向上を図るとともに我が国の科学技術の進歩，経済社会の発展等に資する。 ･茨城県科学技術振興財団等が主催する江崎玲於奈賞，つくば賞，つくば奨励賞（実用化研究部門，若手研究者部門）に対して補助金を交付する。
活動実績	･指針では，科学技術振興のための課題に対して市が取り組むべき事項について，関係各課等における進捗状況について，進行管理を行った。 ･科学オリンピック（物理･情報），イノベーションキャンパス，南極出前授業，科学万博30周年記念シンポジウム，科学の甲子園全国大会等を実施した。また，科学教育マイスター制度の開始 ･科学技術会合（ハイレベルフォーラム）をつくばで開催した。
成果	･各種科学関連イベント等を実施し，科学技術の理解の醸成及び次代を担う人材育成に貢献できた。また，科学教育マイスター制度を開始し，2名を科学教育マイスターとして認定した。 ･ハイレベルフォーラムで，つくばの先進的な取組等を国外に発信したことで，国際的な認知の向上が図られた。
課題	･各種科学関連イベント等の実施において，関係機関と密な連携をとり事業を成功させる必要がある。 ･ハイレベルフォーラムの次年度の開催地はフランスとなるので，関係機関と密な連携をとるとともに，更なる国際的な認知度の向上に努める必要がある。

事業の進捗状況	達成	目標の進捗状況	達成

評価		
	有効性	中：適切な成果が得られている
	効率性	中：適切な費用対効果が得られている
	総合評価	B：成果･費用対効果の向上に努めつつ継続実施

H28年度

改善目標	各種関連イベント等の開催を通して，「科学の街つくば」，「国際拠点都市」としての知名度を更に向上させる。
事業計画	･科学オリンピック，科学の甲子園全国大会，イノベーションキャンパス，南極出前授業等を実施し，科学技術イノベーションを創出する優れた人材の育成等に貢献する。 ･科学技術会合（ハイレベルフォーラム@フランス）において，つくばの国際的な認知の向上を図るとともに我が国の科学技術の進歩，経済社会の発展等に資する。 ･茨城県科学技術振興財団等が主催するつくば奨励賞（実用化研究部門，若手研究者部門）に対して負担金を補助する。
上半期活動実績	-
上半期成果	-
課題	-

事業の進捗状況	-	目標の進捗状況	-

評価		
	有効性	-
	効率性	-
	総合評価	-

事業実施コスト		H26年度決算	H27年度決算	H28年度当初	H29年度当初
事業費（A）		19,134千円	28,153千円	16,370千円	0千円
内訳	国庫支出金	0千円	0千円	0千円	0千円
	県支出金	0千円	0千円	0千円	0千円
	地方債	0千円	0千円	0千円	0千円
	その他特財	0千円	0千円	0千円	0千円
	一般財源	19,134千円	28,153千円	16,370千円	0千円
人件費（B）		7,593千円	24,875千円	24,421千円	
内訳 正職員	従事割合	1.00人	3.00人	3.00人	
	時間外勤務	0.00時間	970.00時間	800.00時間	
	臨時職員等	有	有	無	
事業コスト（A＋B）		26,727千円	53,028千円	40,791千円	

H29年度当初積算根拠	-

H29年度の方向性	-	理由	-